

【神戸大学】令和6年度高大連携特別講義（公開授業）

高大連携特別講義2

時期：令和6年7月26日（金）

場所：鶴甲第一キャンパスB210教室

時限	1 時限（10:00～11:00）
講義題目	歴史を考えるとはどういうことだろうか：インドの歴史のひとこまから
学部	文学部
講義担当者	真下 裕之（ました ひろゆき）
[ 講座の目標等 ]	
<p>大学で歴史を学ぶときには、覚えること（事項の暗記）は求められません。むしろ考えることが必要になります。では歴史を考えるとどういうことなのでしょう。そして過去の出来事を考えることは、今の社会を生きる私たちにとって、どんな意味があるのでしょうか。この講義の目標は、インドのある建造物の歴史についての考え方を聞くことで、大学における歴史研究の一端を知ることです。</p>	
[ 講座の内容・計画等 ]	
<p>インドの王朝ムガル帝国の時代に建設されたタージ・マハルの歴史をわかりやすく説明したうえで、研究者がその歴史を考えるとどうなるのか、説明していきます。</p>	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
特にありません。必要な資料は当日配布します。	
[ 履修上の注意 ]	
「世界史探究」を履修していなくても、この講義の内容は理解できます。	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	

【神戸大学】令和6年度高大連携特別講義(公開授業)

高大連携特別講義2

時期: 令和6年7月26日(金)

場所: 鶴甲第一キャンパスB210教室

時限	2時限(11:10~12:10)
講義題目	学ぶことと主体性
学部	国際人間科学部
講義担当者	吉永 潤 (よしなが じゅん)
[ 講座の目標等 ]	
子曰、學而不思則罔、思而不學則殆→超訳「学ぶことは常に主体性の危機であるが、学ばなければ主体的にはなれない」・・・このパラドックスをどう乗り越えるか、少なくともどう付き合うかを考えます。	
[ 講座の内容・計画等 ]	
①勉強はなぜしんどいか? ②大学とは夢をかなえる所か? ③学習とは思考、思考とは試行。「学びて而して思う」ために ④グループワークと交流	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
特に指定しない	
[ 履修上の注意 ]	
特にありません。	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	
今の勉強に何かしら意義が感じられない、大学に入ればやりたいことができる・・・と思うあなたに、少しでも役立つお話ができればと思っています。	

【神戸大学】令和6年度高大連携特別講義（公開授業）

高大連携特別講義2

時期：令和6年7月26日（金）

場所：鶴甲第一キャンパスB210教室

時限	3 時限（13:00～14:00）
講義題目	港湾物流とスケジューリング
学部	海洋政策科学部
講義担当者	西村 悦子（にしむら えつこ）
[ 講座の目標等 ]	
<p>港湾都市である神戸にある大学として、港湾を取り上げたいと思います。 街づくりの一部として、港湾が計画されると同時に、物流活動の場としての機能も大きい。 そこで、物流活動の場としての港湾機能について話題提供し、船舶が港湾施設を利用するスケジュール情報についても触れてもらいたいと思います。 スケジュール情報は、港湾施設の運用管理に有益な情報を与え、施設整備にも大きく影響します。 港湾政策の立案にも関係します。 そこで、港湾物流とスケジューリングの関係について、理解を深めてほしいです。</p>	
[ 講座の内容・計画等 ]	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 港湾の現状</li> <li>2. 港湾の役割</li> <li>3. 港湾ターミナル施設の概要</li> <li>4. ターミナル運用のためのスケジュール情報</li> <li>5. スケジュール情報の利用と港湾政策への貢献</li> </ol>	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
当日、配布します。	
[ 履修上の注意 ]	
特にありません。	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	
<p>海洋政策科学部は、海洋政策科学科のみで、一般3領域（海洋ガバナンス、海洋基礎科学、海洋応用科学）と海技 ライセンスコース（航海、機関）から構成されています。 その中の政策科学分野の教育を担っているのが、海洋ガバナンス領域です。 海に面した港湾施設を題材に、政策科学とスケジューリングについて話題提供します。</p>	

## 【神戸大学】令和6年度高大連携特別講義(公開授業)

### 高大連携特別講義2

時期: 令和6年7月26日(金)

場所: 鶴甲第一キャンパスB210教室

時限	4時限(14:10~15:10)
講義題目	デジタル変革後の「労働」と「法」
学部	法学部
講義担当者	大内 伸哉(おおうち しんや)
[ 講座の目標等 ]	
<p>社会はデジタル化の進行により大きく変化しようとしている。法律の世界も変化が起こることは避けられないが、そのことを私の専門とする「労働」を通して説明する。受講者には、自分の将来のキャリア設計を考えるうえでの参考となる情報を提供しよう努めたい。</p>	
[ 講座の内容・計画等 ]	
<p>前半は、身近な事例を出しながら、社会の変化と法学の抱える課題を説明してみたい(具体的には、ウーバーイーツの配達員をめぐる問題、株式会社とSDGsなど)。そのうえで、法制度が過去の歴史を背景にして出来上がっていることを説明し、AI時代が到来するなか、仕事の内容が大きく変わり、人間とAIが共生していく社会になるなかで、どのようなことを考えて生きていけばよいかを説明する。</p>	
[ テキスト・教材・参考書等 ]	
<p>参考文献として、講義名と同タイトルの大内伸哉『デジタル変革後の「労働」と「法」』(日本法令)。また新書で比較的読みやすいと思われる大内伸哉『会社員が消える—働き方の未来図』(文藝春秋)も挙げておく。</p>	
[ 履修上の注意 ]	
<p>私語は厳禁。</p>	
[ 高校生へのメッセージ等 ]	
<p>労働は広い意味で捉えれば、私たちの住んでいる社会における様々な課題について、自分の適性や能力を発揮して社会に貢献することになる。人それぞれ得意な分野があり、その分野をとおして、必ず社会に役立つことができる。学校の成績などは、特定の分野(科目)での評価にすぎず、それ以外の分野にも、自分が貢献できるものはたくさんあるはずである。これからはデジタル技術を味方につけて、人間にしかできないような社会貢献を模索することが大切である。</p>	